

津地域一身田地区 地震防災マップ

01-05

位置図



● 防災行政機関

名称	電話
津市役所	229-3104
津警察署	213-0110
中消防署西分署	226-2580
中消防署南分署	225-7431
北消防署北署	232-3092

● 救急告示医療機関

名称	電話
医療法人 吉田クリニック	232-3001
岩崎病院	232-2216
国立大学法人 三重大学医学部附属病院	232-1111
武内病院	226-1111
大門病院	226-5225
医療法人 永井病院	228-5181
遠山病院	227-6171
津生協病院	225-2848
若葉病院	227-0207
<久居地域>	
知行社法人 知行社 三重中野センター	259-1211
横原温泉病院	252-1111
<白山地域>	
三重県立一志病院	262-0600

● 避難所一覧(地震災害・風水害)

名称	電話
一身田公民館(一身田出張所)	232-2019
一身田小学校	232-2054
一身田中学校	232-2157
三重短期大学	232-2341
三重県総合文化センター	232-1111
大里小学校	232-2128
北立誠小学校	232-3502
栗真小学校	232-3041

● 一時避難場所一覧(地震災害)

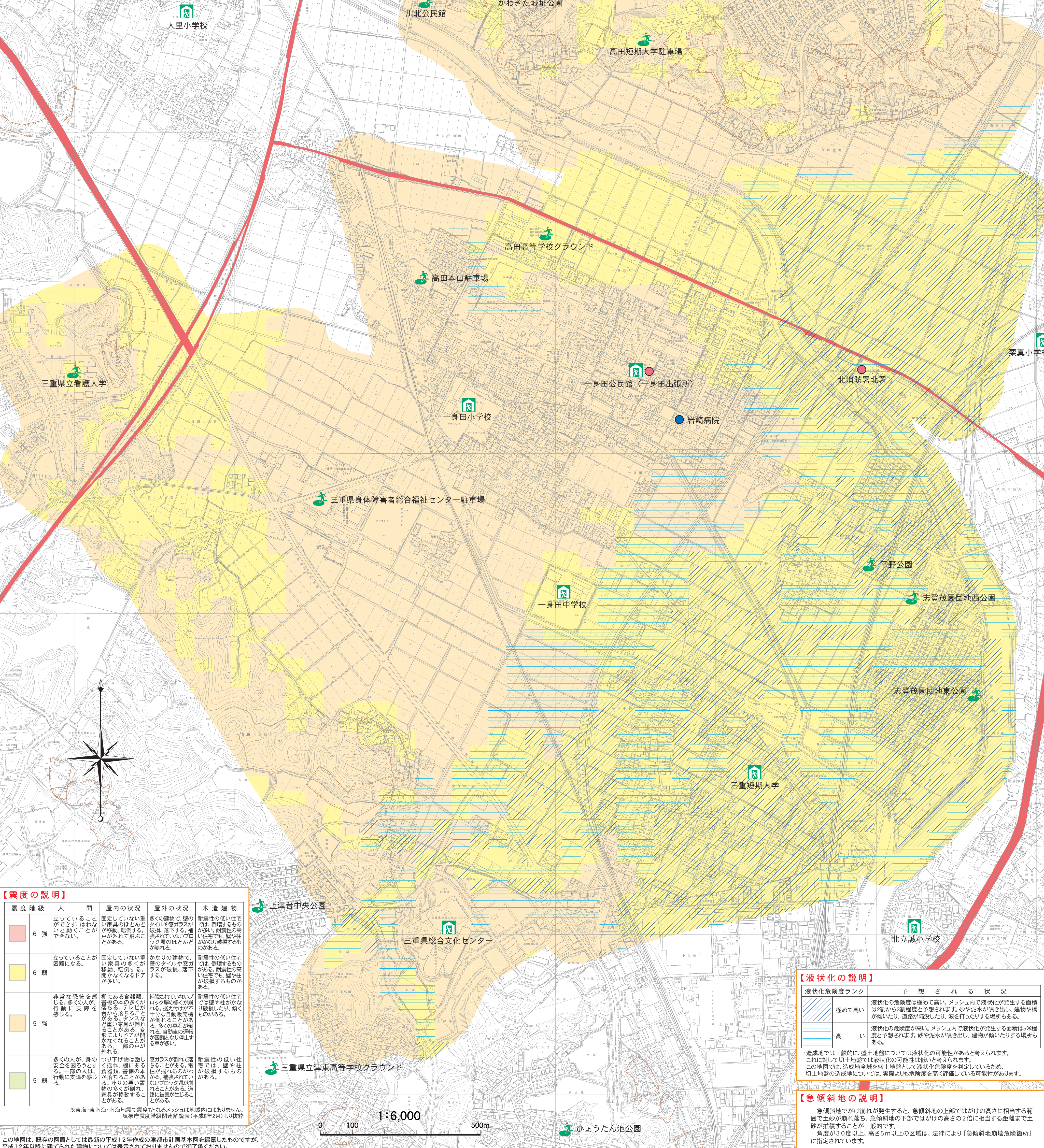
名称	電話
高田短期大学駐車場	232-2310
高田高等学校グラウンド	232-2004
志登茂園団地西公園	-
志登茂園団地東公園	-
平野公園	-
高田本山駐車場	-
三重県身体障害者総合福祉センター駐車場	231-0155
三重県立看護大学	233-5600
かわきた城址公園	-
川北公民館	-
三重県立津東高等学校グラウンド	227-0166
ひょうたん池公園	-
上津台中央公園	-

■ ライフライン関係機関

名称	電話
中部電力(株)津営業所	226-5559
東邦ガス(株)津営業所	228-7161
西日本電信電話(株)三重支店	116
津市水道局	237-5811

【凡例】

- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 緊急輸送道路
- 防災行政機関
- 救急告示医療機関
- 避難所
- 一時避難場所(地震災害)



【震度の説明】

震度階級	人	間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物
6 強	立っていることができない、はわないと動くことがある。	固定していない家具のほとんどが倒壊、転倒する。戸が外れて飛び出ることがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが倒壊する。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。	
6 弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の多くが倒壊、転倒する。戸が外れるものが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。	
5 強	非常に恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。	間にある食器類、書棚の本の多くが落ち、テレビがから落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れる。窓ガラスが破損する。一部の戸が外れる。	補強されていないブロック塀の多くが倒壊する。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀が倒壊するものがある。多くの建物が倒壊する。耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。	
5 弱	多くの人が、身の安全を回らうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。窓ガラスが破損する。一部の戸が外れる。一部の家具が倒壊する。	窓ガラスが割れて落ちることがある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀が倒壊するものがある。耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。	耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損するものがある。	

【液状化の説明】

液状化危険度ランク	予想される状況
極めて高い	液状化の危険度は極めて高い。メッシュ内で液状化が発生する面積は2割から3割程度と予想されます。砂や泥水が噴き出し、建物や橋が傾いたり、道路が陥没したり、波を打ったりする場所もある。
高い	液状化の危険度が高い。メッシュ内で液状化が発生する面積は5%程度と予想されます。砂や泥水が噴き出し、建物が傾いたりする場所もある。

・造成地では一般的に盛土地盤については液状化の可能性が低く考えられます。これに対して切土地盤では液状化の可能性は低いと考えられます。この地図では、造成地全域を盛土地盤として液状化危険度を判定しているため、切土地盤の造成地については、実際よりも危険度を高く評価している可能性があります。

【急傾斜地の説明】

急傾斜地でけがれが発生すると、急傾斜地の上部ではけがれの高さに相当する範囲で土砂が崩れ落ち、急傾斜地の下部ではけがれの高さの2倍に相当する距離まで土砂が堆積することが一般的です。角度が30度以上、高さ5m以上の区域は、法律により「急傾斜地崩壊危険箇所」に指定されています。

この地図は、既存の図面としては最新の平成12年作成の津都市計画基本図を編纂したものが、平成12年以降に建てられた建物については表示されておりませんのでご了承ください。

0 100 500m 1:6,000